



2025 年 9 月 30 日

第 **231** 号

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

〒 305-0802 茨城県つくば市立原 1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

東北研修旅行レポート

国土交通大臣表敬訪問

2024-2025 国際地震工学通年研修閉講式

閉講式での研修生代表答辞

学位記授与式

東北研修旅行レポート

東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問

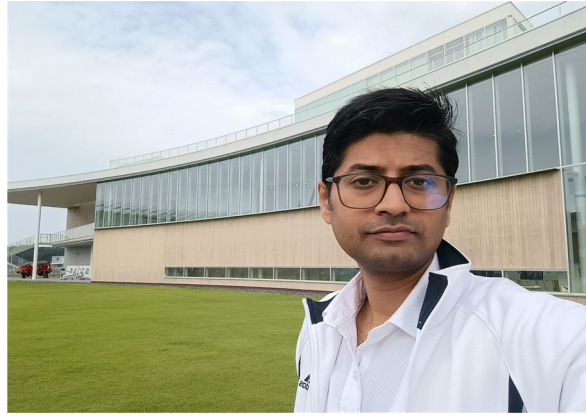
ハック マフムッド ウル
(バングラデシュ、地震工学コース)

2025 年 8 月 22 日、私は福島県双葉郡双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問する機会を得ました。この伝承館は、福島県の多様な文化の歴史と福島第一原子力発電所の建設過程、そして東日本大震災とその津波災害、及び原子力発電所事故の前後における出来事の経緯を保存しています。それは単に甚大な損失の記録としてだけでなく、復興への力強い証言にもなっています。本館は、福島が複雑かつ未曾有の災害とその継続的な影響にどう対処してきたかを示しています。同時に、防災・減災の重要性という未来への教訓も伝えています。展示物や写真、遺品、生存者の証言を前に歩むうち、この悲劇が極めて身近で現実的なものとして感じられました。原発には複数の緊急対策機能が備わっていましたが、原子力発電所で発生した事故に対しては十分に機能しませんでした。この事故から得られた教訓は、日本における他の原発にも活かされています。別の展示では、生活と町の復興に向けた地元住民の努力と国際的な支援が強調されていました。最も印象的だったのは、過去を悼む姿勢と、防災・安全対策の教訓を活かした未来を見据える姿勢のバランスです。この博物館は記憶の場であると同時に、希望とレジリエンス、そして次世代への責任感を育む教育空間となっています。



福島第一原子力発電所の縮小模型

原発には複数の緊急対策機能が備わっていましたが、原子力発電所で発生した事故に対しては十分に機能しませんでした。この事故から得られた教訓は、日本における他の原発にも活かされています。別の展示では、生活と町の復興に向けた地元住民の努力と国際的な支援が強調されていました。最も印象的だったのは、過去を悼む姿勢と、防災・安全対策の教訓を活かした未来を見据える姿勢のバランスです。この博物館は記憶の場であると同時に、希望とレジリエンス、そして次世代への責任感を育む教育空間となっています。



東日本大震災・原子力災害伝承館

復興庁宮城復興局への訪問

マヌエル シアン アイバン
(フィリピン、地震学コース)

今回私たちは復興庁を訪問し、2011年の東日本大震災と津波による被害からの復興に向けた宮城県の取り組みについて学ぶことができました。宮城県における被害の大きさ、そして復興や経済回復が現在どれほど進んでいるかを知ることができました。この見学を通して、大規模な災害に遭ったとしても、そこから立ち上がり再建することが可能だという希望を持つことができました。同時に、復興がかなり進んでいるとはいえ、失われたものについて考えるとき、レジリエンスと希望を持ち続け、災害を通して得た教訓を守り続けていくことの重要性を感じます。復興庁を訪れて、自然災害は避けられないものの、その影響の大きさは、自分たちがどのように備え、対処し、再建するかにかかっているということを実感しました。リスクを軽減し、単に災害前の状態に戻るだけでなく、以前よりも強く、よりレジリエンスの高い社会を築けるように取り組むことが、私たちの責任だと思います。



復興庁宮城復興局



みやぎ東日本大震災津波伝承館。

背景は門脇小学校の遺構。

研修旅行の感想

エスピノーサ エルナンデス クリステル パオラ
(コスタリカ、津波防災コース)

東北地方での研修旅行で、私は 2011 年の東日本大震災と津波による深い傷跡と、日本社会の驚くべき回復力の両方を目の当たりにしました。最も衝撃的な事例の一つが石巻市大川小学校の悲劇です。児童と教職員は避難経路を把握し日頃から避難訓練を行っていましたが、このあまりに大きな規模の津波を生き延びることはできませんでした。この災害は当時の日本の防災体制で対応できるレベルをはるかに超えるものでした。また、他の場所では、指定された避難場所への避難自体は間に合ったものの、津波の高さに対してその場所の標高や建物の高さが不十分だったために被害に遭った事例もありました。



1 日目。日本の最も美しい景勝地の 1 つである松島での集合写真。



杉ノ下高台。この場所での津波被害について都司先生より説明を受けている。高さが十分でなかったため、避難した 90 人以上が津波の犠牲となった。



石巻市大川小学校の遺構にて。この学校で、児童の約 70% と教職員の 90% 以上が犠牲となった。児童らは橋の方へ逃げたが、津波は川を 5km 遡上し、津波の高さは 16 メートルにも達した。



津波の被害が 2 階にも及び、屋根まで破壊している。津波のエネルギーとスピードは圧倒的なものだった。

日本では現在、安全性を高めるため、避難施設の高さの引き上げや安全な場所への住宅の移転、さらには地盤沈下した土地の埋め立てなど、重要な対策を進めています。同時に、博物館や記念公園、被害の爪痕をとどめたままの建物などを通して、震災の記憶を伝え続ける取り組みも行っています。

このようにして復興と記憶の継承を両立させていくことは非常に重要だと思います。社会が震災の記憶を風化させることなく、防災の重要性を常に意識することができるからです。東北は、災害に直面した際のレジリエンスや適応力の重要性を示す「生きた教訓」となっています。

最後に、東北地方でこのような貴重な体験ができるよう尽力してくださった IISEE と JICA に心から感謝したいと思います。とりわけ、津波コースで指導いただき知識を惜しまず共有してくださった藤井先生ならびに都司先生に感謝を申し上げます。先生方のおかげで津波の研究や防災に関する理解を深め、使命感を強めることができました。

国土交通大臣表敬訪問

国際地震工学センター

9月10日(水)、国際地震工学通年研修の修了を控えた12名の研修生が中野 国土交通大臣を表敬訪問しました。

中野大臣は研修生に対して祝意を表し「本研修での学びやネットワークを活かして、地震防災対策のリーダーとしても、日本との交流の架け橋としても、ぜひ母国で活躍してください。」と挨拶されました。

研修生を代表してバングラデシュのロビンさんは、「研修では貴重な講義に加え、被災地の視察を通じて日本の復興への力強さや忍耐力に感銘を受けました。日本で学んだ防災技術を母国の地震対策の指針にも活用するとともに、両国の友好関係を継続していきたいです。」と帰国後の意気込みを述べました。



表敬訪問の様子



集合写真

2024-2025 国際地震工学通年研修閉講式

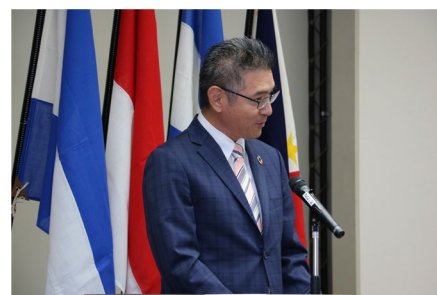
国際地震工学センター

昨年10月1日(火)に開講した国際地震工学通年研修は、9月11日(木)に建築研究所内で閉講式が執り行われました。

6 か国から来日した12名(インドネシア(3名)、エルサルバドル(2名)、コスタリカ(2名)、ニカラグア(1名)、バングラデシュ(3名)、フィリピン(1名))の研修生全員に、研修修了証と科目履修証が授与されました。

研修期間中、各国から選抜された研修生は、地震学、地震工学、津波防災の3コースに分かれ、それぞれの専門性を考慮した講義を受講するとともに、母国で抱える個別の課題に対応するための調査研究をまとめました。

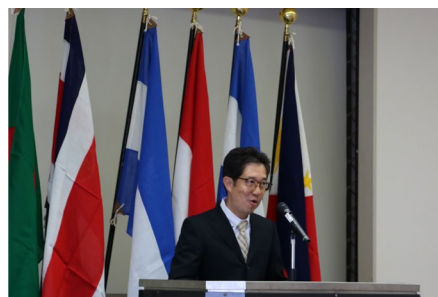
式では、独立行政法人国際協力機構筑波センター所長(本研修連携機関)等からの祝辞後に、国立大学法人政策研究大学院大学防災政策プログラムディレクターから最優秀研究賞2名を、藤井センター長からIISEE優秀賞3名の発表がありました。最後にエルサルバドルのルイスさんが研修生答辞を述べました。



JICA 筑波センター
高橋 亮 所長



建築研究所
福山 洋 理事長



政策研究大学院大学 防災政策
プログラムディレクター
田村 英之 教授



最優秀研究賞
ヴァンデベルデ ブランドン ヘルマン ホセ さん
(Eコース、ニカラグア)



最優秀研究賞
コルテス エルナンデス ルイス エドアルド さん
(Sコース、エルサルバドル)



IISEE 優秀賞
ローマン ハディ ヌル さん
(S コース、インドネシア)



IISEE 優秀賞
キンタニーヤ マルティネス エドワード
スタンリー さん(E コース、エルサルバドル)



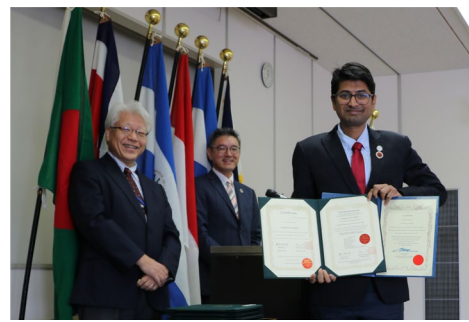
IISEE 優秀賞
エスピノーサ エルナデス クリステル パオラ さん
(T コース、コスタリカ)



プラメスティ エリザベ アングン さん
(S コース、インドネシア)



マヌエル シエン アイバン さん
(S コース、フィリピン)



ハック マフムッド ウル さん
(E コース、バングラデシュ)



モリナ モンテロ ノエリア デ ロス アンヘレス さん
(S コース、コスタリカ)



セティヤハギ アクバル リアン さん
(T コース、インドネシア)



ロビン モハンマッド イリヤス さん
(Eコース、バングラデシュ)



シディキ モハンマッド シャハリヤール さん
(Eコース、バングラデシュ)



閉講式での研修生代表答辞

コルテス エルナンデス ルイス エドアルド さん (エルサルバドル)

独立行政法人国際協力機構筑波センター 高橋亮所長、
政策研究大学院大学 防災政策(DMP)プログラムディレクター 田村英之教授
建築研究所 福山洋理事長、
ご出席の来賓の皆様、
おはようございます。本日はご出席いただきありがとうございます。



本日は単なる研修の終わりの日というだけではなく、疑問、希望、そして成長と学びへの意欲を胸に始まったこの1年間の祝う日でもあります。日本へ来ることが決まった瞬間から今日に至るまで、すべての努力、様々な困難、家族、先生、クラスメートからのあらゆるサポートが、私たちを今日のこの場所に導いてくれました。

この経験は大きな挑戦でした。私たちは母国を離れ、日本という美しい地へやって来ました。日本の文化と言語は、私たちが慣れ親しんだものとは全く異なっていました。最初の試練は日常生活に現れました。蜘蛛の巣のような複雑な路線図を読み解きながら初めて電車に乗ろうとした時です。その後も、学業面でも個人的な面でも数多くの困難が立ちはだかりました。それでも、一つ一つの壁を乗り越えるたびに、自分たちの能力は想像以上に大きく、互いに支え合うことで前進できることを発見しました。

だからこそ、本日は喜びを分かち合う瞬間であると同時に、少し寂しさも感じています。家族のような関係を築いてきた皆さんと過ごす最後の日となるからでしょう。この一年、専門的、学術的、そして個人的な経験を通して私たちは団結し、これからもずっと続いていく友情を築きました。そして、だからこそ、私たちが経験できた全てのことについて、この経験を可能にくださった方々に対し、心より感謝の意を表したいと思います。

地震学・津波・地震工学コースの研修員全員を代表し、IISEE、建築研究所、政策研究大学院大学、およびご協力いただいた各大学の先生方の皆様に、ご自身の知識を惜しみなく共有し、最高水準の教育を受ける機会を与えてくださったことに対し、心より感謝申し上げます。特に、建築研究所、東北大学、徳島大学、豊橋技術科学大学、筑波大学のスーパーバイザーおよびアドバイザーの皆様には深く感謝申し上げます。研究と論文執筆という長い道のりを、最も身近に寄り添って歩んでくださいました。忍耐強く、知恵と揺るぎない献身をもって、学問的に導き、一個人として励ましてくださいました。皆様のおかげで私たちは忍耐強く取り組み続けることができ、目標を達成し、今こうして共に誇りを持って祝うことが出来ています。皆様の教えと温かいお心遣いは、私たちの記憶と心に永遠に刻まれ続けます。そして私たちの一部もまた、いつまでも皆様と共に在り続けられたいと思います。

また、この体験をより充実したものにし、プログラムが最善の方法で機能するよう尽力してくださったIISEEおよび建築研究所のスタッフの皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。皆様の継続的なご支援がなければ、この成果はありえませんでした。常に支援の手を差し伸べてくださり、誠にありがとうございました。

さらに、私たちがここで学ぶ機会を与えてくださったJICA、その職員の皆様、そして全てのスタッフの方々に心より感謝申し上げます。滞在中、常に細やかな配慮をいただき、素晴らしいおもてなしを賜りましたこと、誠にありがとうございました。また、日本文化に触れる機会となった課外活動にも感謝しています。この経験は私たちにとって永遠の宝物となるでしょう。そのことに、心より御礼申し上げます。

クラスメートそして友人である皆さんへ、この研修を完遂したお祝いを申し上げます。私たちは今この瞬間まで共に成し遂げた成果を深く誇りに思い、学んだことをそれぞれの国で活かす自信を持っています。振り返ってみると、私たちが専門的なことだけでなく、人間的にもどれほど成長したかを認識できるでしょう。共に過ごした全ての瞬間を思い出してください。外出したことや笑い声、一緒に祝った誕生日、共に味わった食事を。なぜなら、それらは私たちが自国に戻った時に最も大切に思う瞬間であり、家族や友人へ大切に語る思い出からです。どうかこの先も連絡が途絶えることのないよう、距離が私たちの心に刻まれた友情を消すことのないようにと願っています。

このスピーチを締めくくるにあたり、いくつかの特別な言葉を様々な言語でご紹介します。

フィリピンで「Binabati kita sa iyong pagtatapos! Nais kong hangarin ang iyong tagumpay.」

インドネシア語で「Selamat wisuda! Semoga langkahmu ke depan penuh berkah dan kesuksesan.」

ベンガル語で「আপনাকে অভিনন্দন জানাই এই বিশেষ উপলক্ষে।」

そしてスペイン語で「¡Felicitaciones por esta etapa que culmina! Que el futuro les traiga mucho éxito.」

(卒業おめでとうございます！今後のさらなるご活躍そして成功をお祈りいたします。)

最後に、日本国民の皆様へ「Watashitachi ichidō, kokoro kara kansha mōshiagemasu. Dōmo arigatō gozaimasu.」(私たち一同、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございます。)

学位記授与式

国際地震工学センター

国際地震工学通年研修は、独立行政法人国際協力機構及び国立大学法人政策研究大学院大学と連携して進めてきました。本研修は、高度で専門的なものであり、受講による単位取得及び修士論文を提出することにより、修士（防災政策）号を取得することが可能な研修となっています。

9月12日（金）、政策研究大学院大学で学位記授与式が執り行われ、本研修に参加した12名の研修生全員が出席しました。

この学位記授与式を最後に、研修生はそれぞれ帰国の途につきました。

この研修にご協力頂きました関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



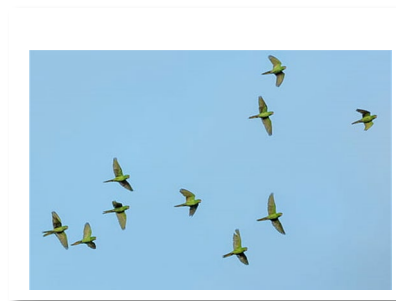


連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。
ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。
また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/>



バックナンバーは下記をご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/newsletter/>

研修関係情報

アブストラクト・データベース(修士論文概要)

E ラーニング(システム)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Bulletin データベース (English)

ダウンロード

地震防災技術情報ネット

データベース

BRI 強震観測網

地震情報 (English)

宇津カタログ

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

東北地方太平洋沖地震

組積造構造実験データベース